

弓山 達也氏

大正大教授



「宗教心は自然や郷土のことを考えることにもつながる」と語る弓山達也さん（東京都豊島区の大正大）

ゆみやま・たつや 1963年、奈良県生まれ。大正大大学院文学研究科宗教学専攻博士課程満了。著書に「スピリチュアリティの社会学—現代世界の宗教性の探求」（共著）など。

「スピリチュアルブームをどう思うか。」「批判している方々の念頭にはメディアに登場して霊視を行う自称『霊能者』があると思う。そこでは前世やオーラを売り物にするなど非常に偏った内容になっている。私もスピリチュアルに関する授業を持っているが、学生の最初の反応はやはり『私の前世は何だったのか？』『オーラはどんなものか？』というふうなものが多い」

宗教的音痴、ブーム拡大

「死の恐怖と向き合う患者の苦悩に対応するターミナルケアの一角には『何のために生きていくのか』という実存的な問いに答えるスピリチュアルケアなど確固とした基礎を持つスピリチュアルシーンはある。その人たちがからすればうさんくさいとみられている今の状況と前世やオーラというレ

ベルから脱し、自己と他者・自然・宇宙とのつながりなど目には見えないが、重要な問題に向き合うようになる学生がいます。」「ゆがんだスピリチュアルブームが生まれた背景は。」「戦後の宗教的音痴という状況が一つある。明

に見えない。ここには無限の市場が広がっている。誰にでも悩みはあるから。霊能者も市場原理にのみ込まれる形で祭り上げられる。祭り上げられればいつかは攻撃される。そういう不幸がある。」「宗教者の責任も大きい。オウム真理教や霊能者を『あれは宗教ではない』と見做すのは無

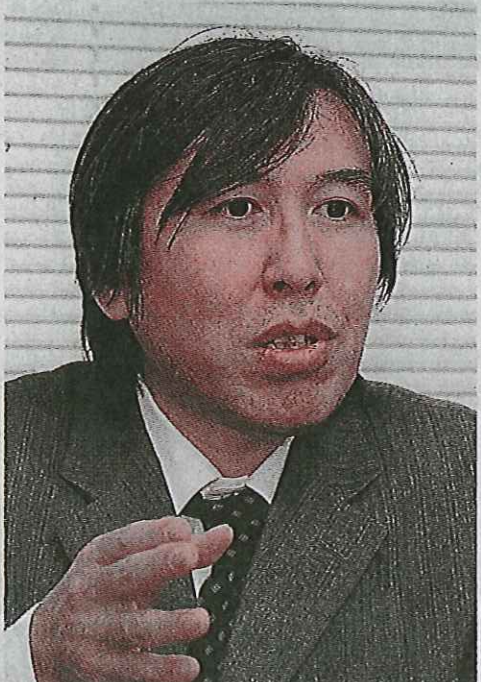
が、それだけだ、というのでも違ったりと思う。人類は、人は死んだらどうなってしまうのだから、魂はどうなってしまうのかという問いかけを何千年も受け継いできた。それを考え続けることから命を大切にすることが姿勢も生まれる。」「宗教教育はどのような形で可能か。」「公立校にお坊さんが来て説教、というのは無理があるだろう。学校という組織の外に父母、地域でつくる第三者機関をつくらせてそこをいろいろな宗教者から話を聞くというのではできないのではないか。」「父母が一緒というのがポイントだ。父母がいないところで宗教者と児童、生徒が直接向き合うことは許されないから。あるいは総合的な学習の時間で宗教を学ぶという手もあるかもしれない」

「スピリチュアル」をどう見る

争論

前世を探ったり、オーラを見たりするスピリチュアル（心霊）がブームだ。火付け役的な江原啓之氏が登場した番組に放送倫理・番組向上機構（BPO）が意見書を

出すなど社会問題化している。スピリチュアルとどう向き合うべきか二人の論者に聞いた。



「カルト宗教の被害は心に後遺症を残す」と語る紀藤正樹さん（東京都千代田区の事務所）

きとう・まさき 1960年、山口県生まれ。大阪大大学院法学研究科博士前期課程修了。著書に「カルト宗教 性的虐待と児童虐待はなぜ起きるのか」（共著）など。

神支配、マインドコントロールもやすい。『霊界で先祖が苦しんでいる』と強迫観念を持たせることが簡単になる。強迫観念や恐怖を利用して入信させ奴隷の状態に置くことが可能になる。そうなるにまえば財産、労働による身体の収奪だけでなく性的にも収奪することが可能だ。それは被害者を長い間、苦しめ続けることになる。」「メディアの責任につ

ジテレビのバラエティー番組に対して『裏付けに欠ける情報の作為』『スピリチュアルカウンセリングの押し付け』など問題提起した。」「すでに全国霊感商法対策弁護士連絡会は二〇〇七年二月、BPO、NHK、民放各社に超能力や心霊現象を扱う番組について行きすぎのないよう要望している。」「スピリチュアルを扱う番組が生まれる背景

「視聴率だけ。」「霊能の世界は証明不可能だが、バラエティーとしては成り立ってしまう。報道機関という観点から見れば、うそや非科学的断定を垂れ流しているという批判が出てくると思うが、テレビ業界は『これはバラエティーです』と抗弁する。外部から干渉されるときだけは『報道機関への圧力だ』と言っている。私はこれを『バラエティーの抗弁』と言っているが、BPOの指摘はこれを排除したい。」「テレビ局は本来的に報道機関だ。バラエティーは付属物にすぎないはず。それがバラエティーが中心になってしまったら本末転倒。もし、そうならテレビの規制も構わないということになってしまふ。テレビ業界は真摯（しんし）に受け止めて状況を改善してほしい」

紀藤 正樹氏

弁護士

カルトへの敷居低くした

「スピリチュアルがブームになっている。」「これまで霊感商法の被害に遭わなかった層の被害が目立っている。中でも二十〜三十歳の若者が被害を受けるようになってきている。スピリチュアルブームは霊界の存在を強調し、同時にヒーリング（癒やし）の要素を取り入れている。霊界、占い、ヒーリングが一緒

「死の恐怖と向き合う患者の苦悩に対応するターミナルケアの一角には『何のために生きていくのか』という実存的な問いに答えるスピリチュアルケアなど確固とした基礎を持つスピリチュアルシーンはある。その人たちがからすればうさんくさいとみられている今の状況と前世やオーラというレ

「霊能の世界は証明不可能だが、バラエティーとしては成り立ってしまう。報道機関という観点から見れば、うそや非科学的断定を垂れ流しているという批判が出てくると思うが、テレビ業界は『これはバラエティーです』と抗弁する。外部から干渉されるときだけは『報道機関への圧力だ』と言っている。私はこれを『バラエティーの抗弁』と言っているが、BPOの指摘はこれを排除したい。」「テレビ局は本来的に報道機関だ。バラエティーは付属物にすぎないはず。それがバラエティーが中心になってしまったら本末転倒。もし、そうならテレビの規制も構わないということになってしまふ。テレビ業界は真摯（しんし）に受け止めて状況を改善してほしい」

「スピリチュアルがブームになっている。」「これまで霊感商法の被害に遭わなかった層の被害が目立っている。中でも二十〜三十歳の若者が被害を受けるようになってきている。スピリチュアルブームは霊界の存在を強調し、同時にヒーリング（癒やし）の要素を取り入れている。霊界、占い、ヒーリングが一緒

「死の恐怖と向き合う患者の苦悩に対応するターミナルケアの一角には『何のために生きていくのか』という実存的な問いに答えるスピリチュアルケアなど確固とした基礎を持つスピリチュアルシーンはある。その人たちがからすればうさんくさいとみられている今の状況と前世やオーラというレ

「霊能の世界は証明不可能だが、バラエティーとしては成り立ってしまう。報道機関という観点から見れば、うそや非科学的断定を垂れ流しているという批判が出てくると思うが、テレビ業界は『これはバラエティーです』と抗弁する。外部から干渉されるときだけは『報道機関への圧力だ』と言っている。私はこれを『バラエティーの抗弁』と言っているが、BPOの指摘はこれを排除したい。」「テレビ局は本来的に報道機関だ。バラエティーは付属物にすぎないはず。それがバラエティーが中心になってしまったら本末転倒。もし、そうならテレビの規制も構わないということになってしまふ。テレビ業界は真摯（しんし）に受け止めて状況を改善してほしい」

「死の恐怖と向き合う患者の苦悩に対応するターミナルケアの一角には『何のために生きていくのか』という実存的な問いに答えるスピリチュアルケアなど確固とした基礎を持つスピリチュアルシーンはある。その人たちがからすればうさんくさいとみられている今の状況と前世やオーラというレ

「霊能の世界は証明不可能だが、バラエティーとしては成り立ってしまう。報道機関という観点から見れば、うそや非科学的断定を垂れ流しているという批判が出てくると思うが、テレビ業界は『これはバラエティーです』と抗弁する。外部から干渉されるときだけは『報道機関への圧力だ』と言っている。私はこれを『バラエティーの抗弁』と言っているが、BPOの指摘はこれを排除したい。」「テレビ局は本来的に報道機関だ。バラエティーは付属物にすぎないはず。それがバラエティーが中心になってしまったら本末転倒。もし、そうならテレビの規制も構わないということになってしまふ。テレビ業界は真摯（しんし）に受け止めて状況を改善してほしい」

「死の恐怖と向き合う患者の苦悩に対応するターミナルケアの一角には『何のために生きていくのか』という実存的な問いに答えるスピリチュアルケアなど確固とした基礎を持つスピリチュアルシーンはある。その人たちがからすればうさんくさいとみられている今の状況と前世やオーラというレ

「霊能の世界は証明不可能だが、バラエティーとしては成り立ってしまう。報道機関という観点から見れば、うそや非科学的断定を垂れ流しているという批判が出てくると思うが、テレビ業界は『これはバラエティーです』と抗弁する。外部から干渉されるときだけは『報道機関への圧力だ』と言っている。私はこれを『バラエティーの抗弁』と言っているが、BPOの指摘はこれを排除したい。」「テレビ局は本来的に報道機関だ。バラエティーは付属物にすぎないはず。それがバラエティーが中心になってしまったら本末転倒。もし、そうならテレビの規制も構わないということになってしまふ。テレビ業界は真摯（しんし）に受け止めて状況を改善してほしい」

「死の恐怖と向き合う患者の苦悩に対応するターミナルケアの一角には『何のために生きていくのか』という実存的な問いに答えるスピリチュアルケアなど確固とした基礎を持つスピリチュアルシーンはある。その人たちがからすればうさんくさいとみられている今の状況と前世やオーラというレ

「霊能の世界は証明不可能だが、バラエティーとしては成り立ってしまう。報道機関という観点から見れば、うそや非科学的断定を垂れ流しているという批判が出てくると思うが、テレビ業界は『これはバラエティーです』と抗弁する。外部から干渉されるときだけは『報道機関への圧力だ』と言っている。私はこれを『バラエティーの抗弁』と言っているが、BPOの指摘はこれを排除したい。」「テレビ局は本来的に報道機関だ。バラエティーは付属物にすぎないはず。それがバラエティーが中心になってしまったら本末転倒。もし、そうならテレビの規制も構わないということになってしまふ。テレビ業界は真摯（しんし）に受け止めて状況を改善してほしい」